

科目名		サブタイトル		担当教員	配置学年	単位数
歴史学B		文化人類学的に文化の歴史と多様性を理解する		濱 雄亮	1 年次後期	2
科目区分	基礎	キーワード	文化人類学・文化			
ディプロマポリシーとの対応		1. 時代や社会の要請に対応できる能力				
カリキュラムポリシーとの対応		1. 一般教養および専門的（交通・観光関係）な知識と実践力とを総合的に身につける				
事前に受講するとよい科目		歴史学A				
講義の目的	「文化」の歴史と多様性・共通性を分析する文化人類学的な考え方を学ぶこと、身体をめぐる文化の多様性や共通性を学ぶこと、江戸・東京の歴史（文化史）や文化財や文化政策について学ぶことを目的とします。それを通して、グローバル化が進化した時代に必要とされる、異文化や自文化について自省的に考える能力の基礎を身につけられるようにします。					
到達目標	①「文化」の歴史と多様性・共通性の背景について具体的に説明できること、②「文化」を比較する方法を具体的に説明できること、③文化史や文化財や文化政策とその問題点について具体的に説明できること、以上の3点を目指します。					
講義内容	「文化」について、広い視点でいろいろな事例を紹介しします。ここでいう「文化」には、食事やあいさつや親戚付き合いの方法など、私たちが「当たり前」と思っている多くの行動や常識を含んでいます。このような広い意味での「文化」について、他の地域の例や過去の例と照らし合わせて具体例を多く紹介しします。具体例は、身体に関連したものを特に多く挙げます。また、私たちが生活している東京の歴史について紹介しします。予備知識はとくに必要ありません。					
講義スケジュール		タイトル	内容			
	第1講	文化人類学の理論(1)	「文化」とはなにか			
	第2講	文化人類学の理論(2)	儀礼：成人式はなぜ荒れるのか			
	第3講	文化人類学の理論(3)	呪術・妖術：呪いは遠い世界の事か			
	第4講	文化人類学の理論(4)	交換と経済：「おごる」ことの意味とは			
	第5講	文化人類学の理論(5)	人種・民族とは何か			
	第6講	身体をめぐる文化(1)	身体観・病気観はどのような変遷をたどったのか			
	第7講	身体をめぐる文化(2)	出産はどのような変遷をたどったのか			
	第8講	身体をめぐる文化(3)	子育てはどのような変遷をたどったのか			
	第9講	身体をめぐる文化(4)	病気・身体と差別			
	第10講	身体をめぐる文化(5)	老いと死			
	第11講	文化人類学の理論(6)	グローバル化するポピュラーカルチャー			
	第12講	文化人類学の理論(7)	季節の変わり目の行事のグローバルな共通性			
	第13講	文化史と文化政策(1)	文化の客体化と文化財保護、そしてその課題			
	第14講	文化史と文化政策(2)	現代と江戸時代の連続性			
第15講	文化史と文化政策(3)・総括	動物と人間の関わりの変遷・総括				
指導方法	講義形式の授業を行います。映像資料やウェブ上の動画・画像や教員が撮影した写真も用います。なお、「**と聞いて思いつくこと」などをその場で質問しその答えを即興で講義に生かすこともあるので、積極的に答えてください。毎回、コメント記入などの授業内課題を課します。					
事前学習	シラバスに挙げられている項目について事典・書籍・信頼できるウェブサイトによって概要を調べて下さい。自分や家族の経験をふり返ることも有用です。1時間程度の学習時間が目安です。					
事後学習	授業中に紹介した書籍や配布物の読解や、自ら関連映像資料を探して視聴をして下さい。支障のない範囲で自分や家族の経験をふり返ってください。1時間程度の学習時間が目安です。					
成績評価方法	平常点（授業内課題）：60%、本試験（筆記試験）：40%。					
テキスト	使いません。紙もしくはpdfの資料を配付します。					
参考書籍	波平恵美子〔編〕『文化人類学 カレッジ版』第3版、医学書院、2011年。道信良子〔編著〕『いのちはどう生まれ、育つのか』岩波書店、2015年。他にもその都度紹介しします。					
特記事項	歴史的行事や博物館の見学会を行う場合があります。ただし参加を義務とすることはありません。					